

# 第3章 復興に向けた被災自治体の取り組み

## 岩手の『元気』を世界に発信！

岩手県商工労働観光部産業経済交流課海外マーケット担当課長 八重樫 浩文

### はじめに

東日本大震災は岩手県にも甚大な被害をもたらした。特に、津波を受けた沿岸部ではいまだに操業を再開できない企業も多くある。

本県には、国内外から多くの支援物資や義援金、温かい励ましのメッセージ等も寄せられた。物心両面で世界中の皆さま方に支えていただきながら、復興に向けた取り組みを着実に進めているところである。

震災直後は中断していた海外経済交流事業も、国等の支援を受けながら再開し、昨年秋以降は積極的に海外への情報発信や市場開拓を図っている。

### 広州交易会および大連中日貿易投資展示商談会への参加

昨年10月、国およびジェトロの支援を受け、中国最大規模の貿易商談会である広州交易会と、大連中日貿易投資展示商談会に、本県として初めて参加した。南部鉄器、漆器（ひでひらぬり秀衡塗・浄法寺塗）や岩谷堂筆筒など伝統工芸品を中心に、そば、日本酒等の食品関係も出展し、多くの商談・成約につなげることができた。

特に、広州交易会には本県から上野善晴副知事



多くの人でにぎわう岩手県ブース（広州交易会）

が出席し、中国の温家宝総理との面談の機会をいただき、被災地支援について御礼を述べるとともに食品の輸入規制の緩和や本県への観光客

来訪についてお願いした。

### 中国における「元気な日本展示会」等への出展

日中国交正常化40周年を記念して外務省等が主催する「元気な日本」展示会（2012年2月～3月にかけて開催）の北京・上海・香港の各会場に、本県を紹介する展示ブースを出展した。昨年6月に世界文化遺産に登録された「平泉」の紹介と本県の伝統工芸品の展示を中心としたブースには、多くの方々が訪れ、南部鉄瓶や秀衡塗などに見入っていた。



中国への感謝の意を表した垂れ幕を掲げた岩手県ブース



多くの人が高い関心を示した南部鉄器コーナー

このほか、日印国交樹立60周年記念イベント「JAPAN NEXT～Quality Products Show」（2012年3月；インド デリー市内で開催）にも伝統工芸品を出品した。

### 上海アンテナプラザのオープン

南部鉄器が中国において茶器として重宝されていることを背景に、本県は、2010年の上海万博にプーアル茶産地として有名な雲南省普洱市



上海の中心部に設置した岩手県「上海アンテナプラザ」

および茶販売業者である上海大可堂茶業有限公司と3者で、共同展示ブースを2か月にわたって出展した。この時の縁で、上海中心部にある上海大可堂本館の一室を間借りし、岩手県の観光・物産全般の情報発信基地として「上海アンテナプラザ」を2012年3月12日にオープンした。なお、今年秋以降には、近くに建設中の新ビルに拡張移転する予定である。

### ASEAN地域等での復興支援フェアの開催

シンガポール、マレーシア、香港において、秋から年末年始にかけて例年実施していた食品フェアを、現地の主催日系企業のご厚意により“復興支援フェア”として開催させていただいた。各国の輸入規制や風評被害もある中で、開催にこぎ着けるまでさまざまな問題があり、販売できる食品



大勢の人でにぎわったマレーシアフェア



香港フェアで元日に行われた餅つき大会

も限られたが、例年以上の売上げ実績を挙げたフェアもあった。

### おわりに

岩手県では、今年度も海外に向け、復興状況等の情報発信や観光・物産PRを積極的に展開していくこととしている。(財)自治体国際化協会をはじめ皆さまの温かいご支援をあらためてお願いする次第である。

## 姉妹州との絆

宮城県経済商工観光部国際経済・交流課主査 半澤 太一

### 経済交流イベント

#### 『Delicious Healthy Miyagi』の開催

宮城県では、2011年2月に(財)自治体国際化協会の「平成22年度海外経済活動支援特別対策事業」の支援を受け、当県の姉妹州であるデラウェア州にて「Delicious Healthy Miyagi」と冠した宮城県の醸造品を紹介する経済交流イベントを開催した(注1)。その結果、同州での宮城の地酒や仙台味噌の知名度が高まり、今後の販路開拓につながる結果になった。

### 東日本大震災の発生とデラウェア州からの支援

このイベントで得られた両県州間の信頼関係をもとに、さらなる経済交流の深化を進めていこうとした矢先に東日本大震災が発生した。あまりにも大きなその被害に呆然と立ち尽くしていた時に、デラウェア州ではジャック・マーケル州知事

が先頭に立って義援金を集めるイベントを開催するなど、宮城県の支援に積極的に動いていただいた。これらの活動は、長年の友好交流で培われた友情の証であり、デラウェア州側の思いにどのような形で報いようかと考えたところ、感謝状の送付だけではなく、直接現地に赴いてフェイストゥフェイスで可能な限り多くの皆さまに心からの謝意を示すことが最善の方法と判断した。

### 今回の事業の枠組み

しかし、宮城県は震災以降その予算の大半を復旧・復興に傾けており、海外へ渡航することはかなり困難な状況にあったが、(財)自治体国際化協会の「平成23年度海外経済活動支援特別対策事業(補正)」の支援を受けることで、デラウェア州へ県の訪問団を派遣することが可能となった。

この訪問団は、①前年度から引き続きの経済交流の継続とその深化 ②被災地宮城への支援に対するお礼という2つの目的を持っていた。①の経

経済交流の継続・深化については前回の訪問で足場を築いた県産品の販路開拓イベントのフォローアップ的な事業や、県州間の経済交流をより活発にするためにデラウェア州内のビジネスに関するキーパーソンとの意見交換など、次年度以降の経済交流事業に結びつけることを主眼にしてスキームを組んだ。②の支援へのお礼については、マーケル知事との面会はもちろんのこと、積極的に義援金の募金活動を展開していただいた多くの高校を訪問し、支援活動に対する謝意の表明と東日本大震災からの復興状況の説明等を実施した。



ジャック・マーケル州知事へのお礼



高校でのお礼イベント

## 成果と今後の展望

販路開拓イベントでは、仙台味噌をフィーチャーし、地元企業のDogfish Head(注2)というビールメーカーとコラボレーションし、メーカーで直営しているダイニングバーにて仙台味噌を使った料理とビールをお客さまに振る舞った。提供された料理はおおむね好評で、今後レストランでのメニュー化に向けて期待できる結果となった。このようにレストランでメニュー化されることで、仙



Dogfish Headとのイベントの様子



仙台味噌とのコラボレーションメニュー(ラムチョップ味噌ソース)



村井知事のビデオメッセージ

台味噌が実際に消費されるとともに、知名度向上・販路開拓が期待でき、次のステップとして、レストランでの定番メニュー化や継続的な取引実現につながるよう引き続き関係者との協議を続けていきたいと考えている。

また、ビジネスキーパーソンとの意見交換では、今後の県州間のビジネスマッチングに向けた有用な情報を得た。

支援へのお礼については、村井嘉浩宮城県知事のビデオメッセージを放映するとともに、復旧・復興に関するプレゼンテーションを通じてさまざまな支援に対する謝意と今後の復興に向けた決意をより多くの皆さまに伝えることができた。

## 結びに

現在、当県では村井知事を筆頭に県民一丸となって復旧・復興に邁進しているところである。今回の事業を通じて、姉妹県州の絆の再確認とともに、経済交流のさらなる深化への足場を固めることができた。あらためて、本事業のきっかけを与えていただいた協会へお礼申し上げる。

(注1) 詳しくは「自治体国際化フォーラム2011年9月号」をご参照いただきたい。

(注2) 同社についてはウェブサイトをご参照いただきたい。  
<http://www.dogfish.com/> (英語のみ)

# 「ふくしまから はじめよう。」

福島県国際課・観光交流課・県産品振興課

福島県は東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故という大きな災害に見舞われた

が、日本全国、そして世界各地の方々から寄せられた多くの支援を支えに、復旧から復興へと歩み

を進めている。2011年12月に復興計画を策定したほか、震災から1年の節目となった本年3月には「ふくしま宣言」を行い、ふくしまの再生に向けて取り組んでいるところである。特に、震災後に落ち込んだままとなっている外国人観光客の誘致と県産品の安全性のPR、海外での販売促進を目指して、さまざまな事業を実施している。

### 海外に向けた正確な情報発信を！

東日本大震災以後、海外からいただいた心温まる支援に感謝の意を表するとともに、本県の復興状況や原子力災害の正しい情報を発信するため、昨年9月に韓国ソウルで開催された「日韓交流おまつり2011 in Seoul」に参加した。この活動は、(財)自治体国際化協会の海外経済活動支援特別対策事業の事業採択を受けて実施することができ、いわき市スパリゾートハワイアンズによるフラダンスをはじめ、風評被害払拭の展示ブースを開設するなど、当事業により震災後初の海外誘客活動に踏み出すことができた。



フラガールが福島元気を発信！

しかしながら、外国人観光客の来県状況は震災前の1割程度と、本県観光を取り巻く環境は依然厳しいものがあり、国等と連携しながら海外に対する原子力災害に関する定期的かつ正確な情報発信が極めて重要であると認識した次第である。そこで、海外での誤った認識を払拭するため、国は



ブースには多くの方が訪れ、励ましの言葉をいただいた

もとよりJNTOや東北観光推進機構等と連携し、海外の旅行エージェントやマスコミ等の受け入れ、招聘に積極的に取り組むとともに、昨年9月から海外でのプロモーション活動を再開したことにより、2011年11月には台湾から震災後初となる国際チャーター便が福島空港に降り立つなど、少しずつではあるが国際観光にも光が見えつつある。また、運休となっている福島空港の国際定期路線の再開に向け、韓国や中国に対し渡航制限の解除等を粘り強く働き掛けつつ、放射線に関する正確な情報提供はもとより本県観光の魅力や食品の安全対策などをしっかりアピールしながら外国人観光客の再誘致に努めていく。

### 交流を通じた復興支援

中国からは2012年2月に、福島県上海事務所を通じて上海理工大学の教授と学生が来県した。県では郡山市にある食品工業団地において放射線の検査体制を説明し、県産食品の安全性をPRした。一行は同市にある被災者の仮設住宅を訪れ、県内



仮設住宅で餃子作り

産の野菜等を材料にした本場の餃子を手作りし、振る舞っていただいた。被災者の方々にも大変好評で、学生との深い絆ができた。学生らの帰国後、上海理工大学日本文化交流センターでは、福島県訪問時に撮影した写真展を開催するなど、本県の状況や学生との交流の様子を多くの上海市民に向けて発信している。

### 未来につなげる、うつくしま

震災は福島県に大きな被害をもたらしたが、復興に向けた過程の中で国内外に多くの縁を結ぶことができた。特に海外での経済活動においては、正確な情報の発信が鍵となることから、関係機関の協力を得ながら進めているところである。

今後も「ふくしまから はじめよう。」をスローガンに復興に向けて歩み、ふくしまから新たな流れを創っていききたい。



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

# 姉妹自治体交流表彰団体

## ～ クレアより ～

姉妹自治体交流表彰については、創意工夫に富み、地域振興につながる交流活動を行っている団体を表彰し紹介することで、全国への波及効果を狙い、2006年度より実施しています。第6回（2011年度）表彰は、横須賀市、釜石市、竹田市が受賞されました。

今回はそのうち、東日本大震災を契機に姉妹自治体からの支援等を通じて絆が強まった団体として表彰（東日本大震災対応）された釜石市と竹田市の取り組みを紹介します。

## 「アンモナイト」が結んだ絆の架け橋

釜石市（岩手県）

### はじめに

今回の東日本大震災にあたり、国内はもとより世界中の皆さまから温かいご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

フランス共和国ディーニュ・レ・バン市との交流は、1992年に釜石市で「三陸・海の博覧会」が開催されるにあたり、ディーニュ市にある「アンモナイトの壁」のレプリカが、ディーニュ市等のフランス技術団の協力により製作され、博覧会のシンボルとなったことが契機となっています。その後、このレプリカは、釜石市の観光施設「鉄の歴史館」に保存されることになり、再度ディーニュ市の協力をいただいたことから、姉妹都市交流が始まりました。しかし、その後の年数の経過によって、いつしかその交流は「化石」となりつつありました。

### 大震災後の支援と交流

釜石市は、大震災により死者・行方不明者1,046人、被災家屋4,614戸、最大時の避難者9,883人という被害を受けました。震災の発生が平日の昼であったため、家族は離れ離れとなり、また道路が寸断され情報通信網が不通となったため肉親の安否がまったく分からず、混乱が極限に達しました。被災者の応急対策に追われ混乱がまだ続いていた昨年5月、市の災害対策本部にディーニュ市の広報誌を携えた方が訪問されました。その方は

「ディーニュ市民が釜石市のため結集していること、釜石市民に寄り添いこの困難を共に乗り越えていく意思があること」を伝えてくれました。

その後7月下旬になって、ディーニュ市から公式な連絡が届き、大震災の犠牲者に対し全市民を挙げて黙祷をささげたこと、市内で行われるイベントで釜石応援ブースを設置し義援金を募っていること等、たくさんの支援内容とディーニュ市の想いが伝えられました。



ディーニュ市からの義援金を受け取る在マルセイユ総領事館の長澤首席領事



ディーニュ市長に被災状況を伝える釜石市の中学生

8月には、在マルセイユ総領事館のご協力により両市長の電話会談が行われ支援に対する感謝を伝えることができました。また、被災地に入り支援活動を行っていたNPO法人「国境なき子どもたち」のご協力により、釜石市の中学生のディーニュ市訪問が実現し、あらためてお互いの強い絆を確認しました。

### 未来へ

大震災は被災地からあまりにもたくさんのかげがえのない命と財産を奪っていきました。しかし、大震災を経て、アンモナイトで結ばれた姉妹都市は眠りから目覚め、あらためて深い絆でつながり

ました。釜石市はこれからも復興に向け<sup>たわ</sup>撓むことなく屈することなく取り組んでまいります。その側にはディーニュ市の皆さんの温かい真心が寄り

添ってくれることでしょう。姉妹都市の堅い絆は、私たちに勇気を与えてくれました。

## 姉妹交流が育てた日本を思う心

竹田市（大分県）

### はじめに

東欧民主化の象徴たるベルリンの壁崩壊が起こった1989年、竹田市（旧直入町）公式訪問団がドイツの地に降り立ちました。壁崩壊の余韻さめやらぬ、その年の11月下旬のことでした。

温泉療養の先進事例を学ぶため訪問団が向かった先こそが、東日本大震災の折、心から日本を気遣い、物心両面にわたる支援を展開したドイツ南西に位置するバーデン・ヴュルレンベルク州のバートクロツィンゲン市です。

両市が湧出する「炭酸泉」を核とした交流は、人材交流や文化交流にとどまらず、バート市から寄贈されたブドウ畑から醸造された特別ラベルのドイツワインを日本で限定販売するなど、経済交流にまで裾野を広げ、2004年10月17日正式に姉妹都市締結を行いました。1市3町が合併した2005年以降も活発な交流は続き、2009年秋には両市の関係者が会し、本市で交流20周年記念事業を開催しました。



バート市に竹田市（旧直入町）のブドウ畑が誕生し、現地で贈呈式を開催

### 東日本大震災で発揮した友情

3月11日の大震災を受け、「仙台市の両親を失った子どもたちに優先して使ってほしい」との思いが込められたバートクロツィンゲン市の募金活動が始まりました。発生直後、竹田市の被災がないことを確認したバート市関係者は、「荒城の月」を縁として竹田市と音楽姉妹都市の間柄にある仙台市の窮状を知り、本市を経由して支援を行いたいと表明されたのです。バート市の新聞にも掲載され、多くの市民の賛同を得たため、第1次分と

して3万ユーロ（約340万円）もの大金が集まり、竹田市分とあわせ仙台市に送金されました。



昨年5月、義援金の目録と共に仙台市長に渡された折り鶴と絵

また、5月29日にはバート市近郊のフライブルグ市の日本人音大生やドイツの音楽家を中心となった「チャリティコンサート フォア ジャパン 頑張れ

日本」が開催され、その収益金と第1次分以降の募金をあわせた6,500ユーロが再送金されました。

さらには、本市の国際交流員の出身地旧東ドイツのタバルト市のボランティア団体からも激励の絵画や折り鶴が送られ、5月16日に竹田市長が仙台市を訪問した際、義援金の目録とあわせて、仙台市長に直接手渡すことができたのです。

もう一つの音楽姉妹都市である長野県中野市とも連携し、大型トラック2台で震災直後に義援物資を仙台市に届けたことも忘れてはなりません。

このように1組の姉妹都市交流が相乗効果を生み、国内外を問わずさまざまな友情の証しが仙台に届けられたのです。

### 未来に向けて

思いやりの心に国境の壁がないことが端的に示された今回の出来事は、姉妹自治体交流の流れに<sup>さお</sup>棹をさすものでした。そのため本市においては、既存の交流に加え、郷土の先哲に由来したロシアや中国との国際交流も机上に上がり、さまざまな角度から検討が加えられています。

ローカルであるからこそグローバルな視点で未来を拓かなければならない。そのような時代の到来をバートクロツィンゲン市は教えてくれたのでした。